

2024年度 M6 選択型 CC 指導体制評価まとめ

期間：2024年1月9日～2024年6月28日

対象：99名

回答数：372（協力病院 184/附属病院 188）

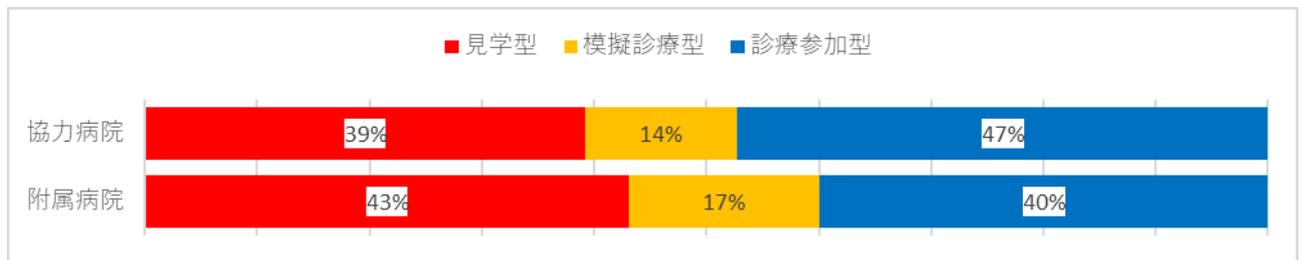
回答率：93.9%（協力病院 92.9%/附属病院 94.9%）

① 今回の実習は主にどの臨床実習形態でしたか

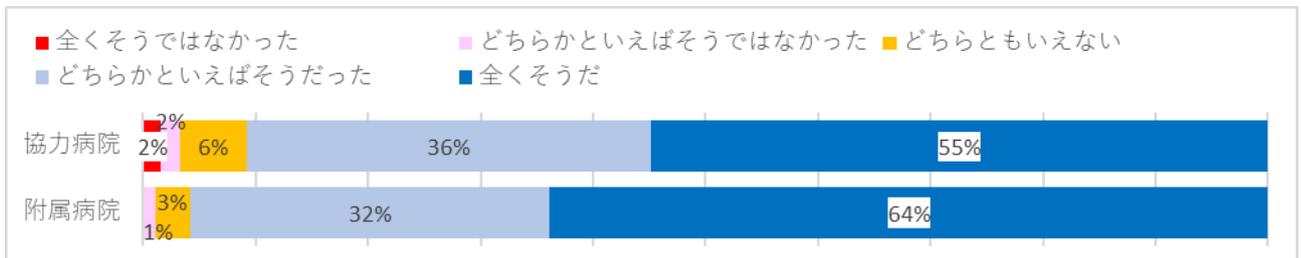
見学型：診察を見学するのみで、患者とは関わらない

模擬診療型：実際に患者と接し、問診や身体診察は行うが、あくまでも実診療の枠外で行われる

診療参加型：実際の患者診察に医療メンバーとして参加し、指導医の指導・監視の下に許容される一定の範囲の医行為を行い、診察を補助しながら訓練を行う（いわゆるクリニカル・クラークシップ）



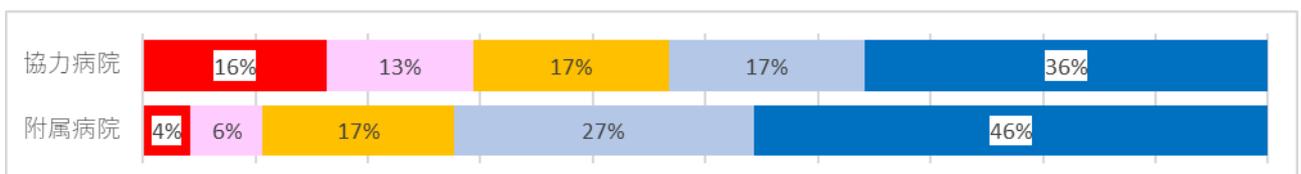
② 始めにクラークシップで自分に与えられる診療上の役割が説明された



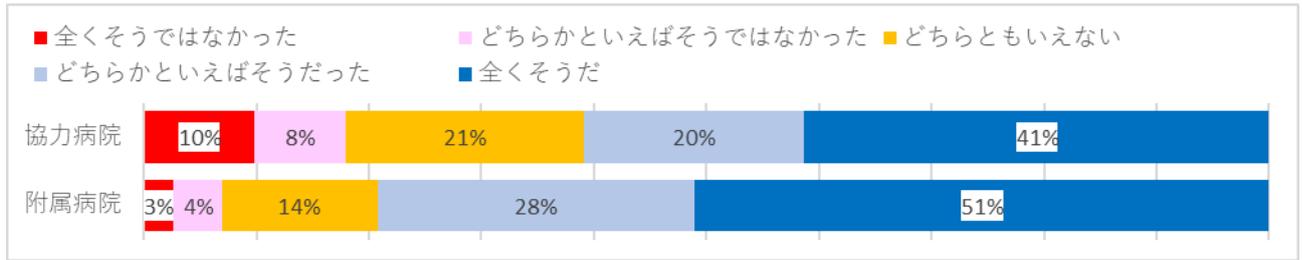
③ 患者数や疾患の種類は適切だった



④ 正規のカルテを記載する機会が十分に与えられた



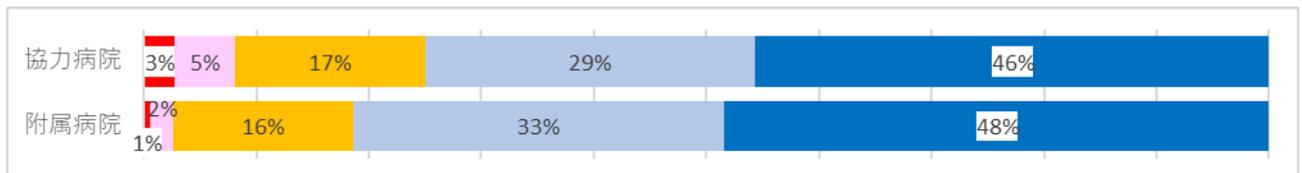
⑤ 回診、カンファレンスなどで症例呈示の機会が十分に与えられた



⑥ 医療手技を行う機会が十分に与えられた



⑦ 診療方針について自分なりの意見を述べる機会を与えてくれ、ディスカッションができた



⑧ 口頭で情報提供、あるいは、役に立つテキストや論文などが配付されるなど、手技のコツや診断のカギとなる医学知識をよく学べるように適切な援助を受けた



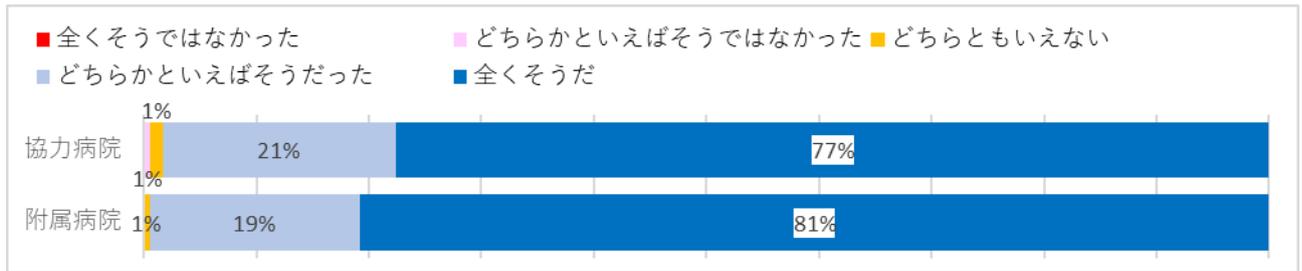
⑨ 指導医や研修医、看護職員から、技能・知識・態度に関するフィードバックがあった



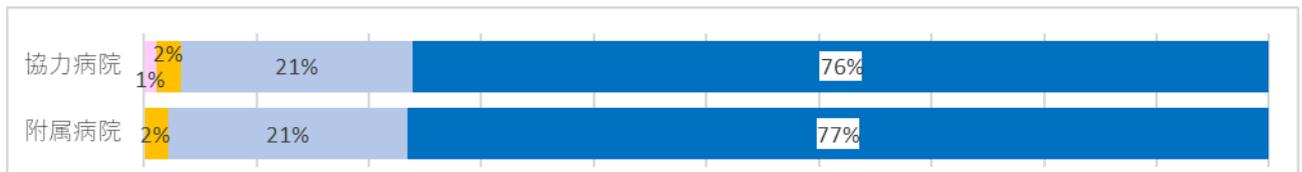
⑩ 指導医や研修医は自分を医療チームの一員として尊重してくれた



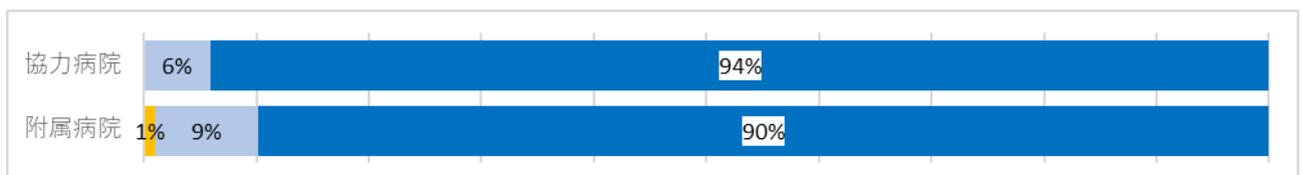
⑪ 指導医や研修医は相談しやすかった



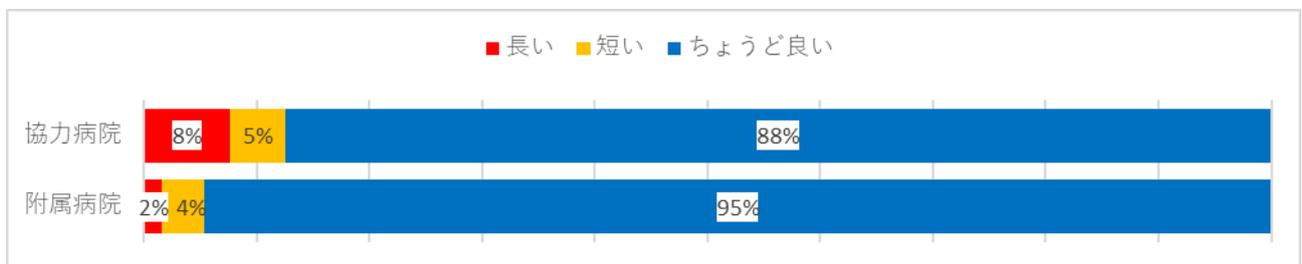
⑫ 指導医や研修医はチーム内、メディカルスタッフとの人間関係がうまくいくように配慮してくれた



⑬ 自分の接した指導医、研修医の先生方は、熱心に指導してくださいましたか



⑭ 1 病院 4 週間の実習期間について



⑮ 上記の理由を教えてください

(長い/協力病院)

- ・いくつかの病院をみたいから(3)
- ・複数の診療科をまわりたいと思うから(2)
- ・同じ症例の治療見学が多かった(2)
- ・長く感じた
- ・2週間でちょうどいいと感じる
- ・他職種授業が多く医者としての勉強が少なかった

(長い/附属病院)

- ・優しく、わかりやすく教えてくださった
- ・読影のトレーニング期間としては2週間は適度だったが、IVR 実習と核医学実習は合わせて1週間程度でも十分ではないかと感じた

(短い/協力病院)

- ・充実していて、時間が短く感じたから(3)
- ・もっと多くのことを学びたいと感じたから(2)
- ・複数診療科まわるには少し短く感じた
- ・いろんな診療科の先生方にもっと知見を深める機会をいただきたいから
- ・日々様々な患者さんが来られて、長い期間実習すればするほど、力が付くと実感したから
- ・救急初期対応の基本的な型を身に付けることはできたと思うが、自分で鑑別診断を考えたり必要な検査を考えるのにはまだ時間が短かったと思う

(短い/附属病院)

- ・まだまだやりたかったことが沢山あった(2)
- ・あっという間に1ヶ月が過ぎてしまった(2)
- ・まだまだ勉強したいことが多かったから
- ・1人の患者さんと向き合うには短すぎる時間だった
- ・症例提示や質問に慣れてきた頃で、もっと活用していきたいと思うことができたから

(ちょうど良い/協力病院)

- ・ちょうどいい期間だった(19)
- ・様々な疾患や手術、検査を見れたから(19)
- ・実習先の病院や診療科について充分知ることができたから(13)
- ・すごく充実していたから(11)
- ・複数の診療科を回ることができ、色々見ることができたため(11)
- ・たくさんのことを学ぶことができた(9)
- ・一通り経験し、全体を把握することができた(8)
- ・4週間で患者さんが入院してから退院するまでの経過を追うことができた(6)
- ・最初の2週間で概要を把握し、後半2週間で実践的な実習ができたから(5)
- ・雰囲気慣れ、人間関係も築くことができた(4)
- ・バランスよく学べる(3)
- ・楽しかった
- ・効率が良いから
- ・複数の症例に対して十分調べて考察する時間取れたため
- ・大学の実習ではできなかったことを中心にさまざまなことを学べたから
- ・段階を通してさせていただけることが増えた中で、4週間はとても良い期間だった
- ・初めの頃はうまくできなかったことも1ヶ月間あれば月の終わりには少し上達を感じられたのでちょうどよかった
- ・1ヶ月の中で同じ主訴の患者を何人か見て、何を問診するべきか、どんな身体所見をとるべきか、なんの検査をオーダーするべきか、結果をどう解釈するか、入院か帰宅か転院かなど自分で考える力がついたため

- ・病院の特性上、そこまで広範に患者さんを受け入れているわけではないので、1ヶ月で十分と感じた

(ちょうど良い/附属病院)

- ・様々な症例を経験することができたから(24)
- ・ちょうどいい期間だった(15)
- ・業務内容を理解して実践していくには十分な期間であったため(13)
- ・症例や手術を一通り経験することができたから(8)
- ・患者さんをフォローできたから(7)
- ・必要かつ十分な内容を学習できた(7)
- ・とても熱心に教えてくださり、満足のいく期間であった(7)
- ・患者さんを退院まで受け持つことが出来たから(6)
- ・多くの手術や手技を見学することが出来たから(6)
- ・5回生のときよりも、しっかり学ぶことができました(6)
- ・充実した楽しい1ヶ月間でした(5)
- ・プレゼン作成にちょうど良い長さだった(3)
- ・色々なことを学びながら、自習もできた(2)
- ・ある程度、どのような病院なのかわかるため
- ・苦手な科であったが、4週間を経て深く知ることができたため
- ・自分の中で課題を見つけ手技を伸ばすことができるが長すぎない期間だったから

【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

いずれの項目とも前年度より向上がみられ、より充実した実習を提供できていると考えられる。教育協力病院、附属病院とも実習形態が診療参加型となっているのが半数に達しておらず、改善が望まれる。

カルテ記載について、教育協力病院での環境が整わず機会が少ないのは致し方ない面もある。その分、附属病院では積極的に行ってもらいたい。

⑩ 今回の実習について良かった点

(協力病院)

- ・先生方のご指導がとても熱心だった(28)
- ・たくさんの手技を見学できた、やらせてもらった(24)
- ・手術に積極的に参加させていただくことができた(14)
- ・幅広く学ぶことができた(13)
- ・自分のペースで実習できた(11)
- ・大学では体験できなかった症例や手技を経験できた(11)
- ・とても充実した実習ができた(6)
- ・救急のファーストタッチを学べた(6)

- ・患者さんとも関わる機会が多くあった(6)
- ・先生に直接質問をすることができる環境がよかった(6)
- ・大学病院では知り得なかった市中病院での働き方を知ることができた(6)
- ・将来が想像できた(5)
- ・実習の希望を聞いてくださった(4)
- ・先生からの説明が詳細で的確だった(4)
- ・複数診療科まわられたのがよかった(3)
- ・医学的な知識以外も学ばせていただいた(3)
- ・ダビンチをさせてもらえた(2)
- ・1人の医師のように扱って下さり、様々な経験を積ませて頂き、かつ、説明もなされた(2)
- ・理想のCC実習だと感じた
- ・地域医療についても学ぶことができた
- ・職員の方みなさんに気配りいただき、自習空間にも配慮いただき、快適に過ごせた
- ・医師として、社会人として必要になってくるスキルがまだ自分には不十分であると気づけた
- ・コメディカルの方もみなさん私の指導に参加していただいだけ、先生以外からも様々なことが学べた

(附属病院)

- ・先生が熱心に教育して下さった(28)
- ・とても学びの多い実習だった(23)
- ・手術見学が多かった、術中にやらせてもらえる手技があった(21)
- ・手技をたくさん見学できた、積極的にさせてもらえた(16)
- ・カンファレンスで多くの症例を勉強することができた(10)
- ・多くの症例について学ぶことができた(9)
- ・診療に参加する機会がすごく多く、今まで以上に積極的に取り組めた(9)
- ・1人の患者さんとじっくり向き合えた(7)
- ・有意義に過ごすことができた(5)
- ・レクチャーの内容が充実していた(5)
- ・フィードバックが得られた(3)
- ・自分のペースで実習できた(3)
- ・1年前とは違った視点からたくさん学び取ることができた(3)
- ・学会に参加できた(2)
- ・実習の希望を聞いて下さった(2)
- ・医局の雰囲気がよくわかった(2)

⑰ 今回の実習について悪かった点 (反省点も含む)

(協力病院)

- ・特になし(51)

- ・見学の内容が限られていた(4)
- ・もっと色々な医療行為をしたり検査内容を考える機会があれば良かった(3)
- ・立地が通いづらかった(2)
- ・何もしない時間が多かった(2)
- ・期待通りの学習ができなかった(2)
- ・患者さんと接する機会があまりなかった(2)
- ・カルテ記載方法など、もっとフィードバックを頂いて改善していき良かった
- ・医者以外の内容の見学が多過ぎた
- ・最初のオリエンテーションが無く、流れが掴みにくかった
- ・実習内容が1ヶ月同じだった
- ・実習で学生が来ることをご存知でない先生方がほとんどで、集合場所や実習の日程について先生方に調整していただくお手間を取らせてしまったことが何度かあった
- ・学生の待機場所がない
- ・救急科を回ったが、ピッチやポケベルを持たせて欲しかった
- ・電子カルテのIDを交付していただくと、患者さんの情報が把握しやすくなるので助かる
- ・自主性、積極性が足りなかった(21)
- ・予習が足りなかった(14)
- ・自習時間を有効的に使えなかった(7)
- ・せっかく機会をいただけたのに、自身の手技能力が低かった(4)
- ・診療の難しさを痛感した(3)
- ・自身の体調管理が甘かった(2)
- ・集中力が切れてしまう時があった(2)

(附属病院)

- ・特になし(58)
- ・聴診をもっとしたかった
- ・外来での学びが少なかった
- ・外来見学でかなり体力を使ってしまい他の勉強があまりできなかった
- ・本人だけで、家族に話を聞くことができなかった
- ・担当患者さん以外の患者さんと会うことがほとんどなかったため、かなり限られた症例のみを学ぶことになった
- ・アブレーションの手技に関してあまりよくわからなかった
- ・全てのオペに入ることができなかった
- ・課題が少しオーバーワークな気がした
- ・最後の発表で考察した内容を実際に実践するところまでできたら尚更良かったと思う
- ・症例データの正確性や件数が十分でなかった
- ・朝が少し早かった
- ・予習が足りなかった(21)

- ・自主性、積極性が足りなかった(19)
- ・せっかく機会をいただけたのに、自身の手技能力が低かった(5)
- ・診療の難しさを痛感した(3)
- ・自身の体調管理が甘かった(2)
- ・レポートを早く仕上げ一度先生に添削いただいてから最終提出するべきだった

⑱ どのようなことを学んだと思いますか

(協力病院)

- ・手術・手技：手術の見学や参加を通じて、解剖や手術内容の把握、カメラ操作、縫合などの技術を学んだ。助手としての役割やチームワークの重要性も実感した。
- ・診断・治療：CT画像やカテーテルの操作、心電図の読み方、救急対応など、臨床に必要な技術や知識を習得した。症例から診断を進める過程や、疾患の鑑別方法も学んだ。
- ・患者さんとの接し方：患者さんとのコミュニケーションの大切さ、ICの取り方、患者さんの社会的背景を考慮した診療の重要性を学んだ。
- ・チーム医療：他の医療スタッフとの連携の重要性や、全人的な医療提供の考え方を学んだ。
- ・現場の経験：市中病院や大学病院での実習を通じて、それぞれの環境や診療の違いを経験し、地域医療の実態や、各科の具体的な疾患や治療方法について深く学んだ。
- ・自己啓発：医師としての姿勢や、知識と技術の向上の重要性を改めて感じ、今後の研修医としてのキャリアに向けた意識を高めた。

(附属病院)

- ・臨床的知識と技術の習得：患者ごとの治療法の選択や、術前・術中・術後の管理を学んだ。骨盤の解剖、手術手技、画像診断の読み方など、実践的な知識と技術を深めた。ALLやdLBCLの治療法、抗菌薬の選択、消化器疾患の治療法についても詳しく学んだ。
- ・臨床判断と患者対応：診断から治療までのプロセスを学び、患者に寄り添った対応の大切さを学んだ。緊急疾患の対応や術式の選択肢、カンファレンスでの討議を通じて、医師としての責任や判断力を養った。
- ・医療チームの一員としての役割：コメディカルスタッフとの協力や、医療チームとしての振る舞い方を体験した。幅広い領域の知識を他の診療科と連携して学んだ。
- ・医師としての成長と自己研鑽：患者とのコミュニケーションや診療方針の伝え方など、医師としての姿勢を学んだ。主体的に学び、経験を通じて自分自身をブラッシュアップする機会を得た。
- ・特殊な疾患や治療法の学び：血液疾患や膠原病、精神科疾患、呼吸器疾患など、各分野での専門知識を深めた。糖尿病や内分泌系疾患など、国家試験では学べない実践的な薬の使い分けも学習した。

【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

教育協力病院と附属病院で互いに実習内容を補完できており、大きな問題点も見当たらず、良いCCとなっている。「実習について悪かった点」については自己反省が多く、せっかくの機会を無駄にすることのないよう事前のオリエンテーションなどで周知されたい。